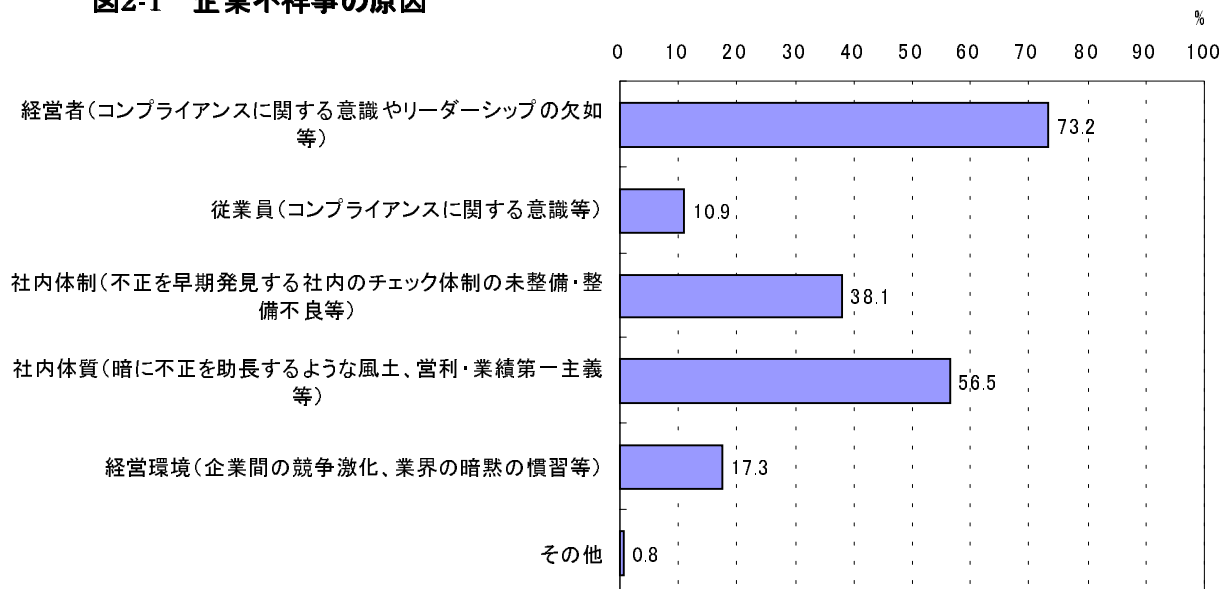


第2部：昨今の企業不祥事について

問1 国内で多発した不祥事の原因は主に何にあるとお考えですか。
(〇印は重要と思われるものを2つ選ぶ)

- 企業不祥事の原因として、第1に経営者のコンプライアンスに関する意識やリーダーシップの欠如等があげられ(73.2%)、第2に暗に不正を助長するような風土、営利・業績第一主義等の社内体質があげられた(56.5%)。
- 回答者(企業)のプロフィール別の回答傾向の違いは見られなかった。

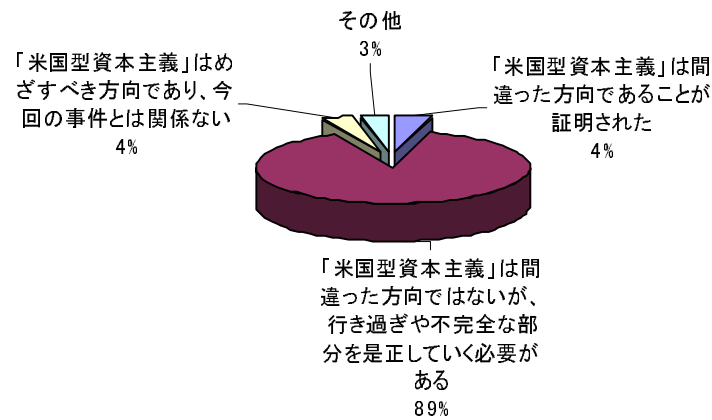
図2-1 企業不祥事の原因



問2 米国での事件を契機に、市場原理や株主価値を追求するいわゆる「米国型資本主義」に対する疑念や批判が高まっていますが、これについてどうお考えですか。
(〇印は1つ)

- 米国型資本主義は、「間違った方向ではないが、行き過ぎや不完全な部分を是正していく必要がある」との回答が89%を占め、「間違った方向であることが証明された」、「めざすべき方向であり、今回の事件とは関係ない」がともに4%となった。
- 回答者(企業)のプロフィール別の回答傾向の違いは見られなかった。

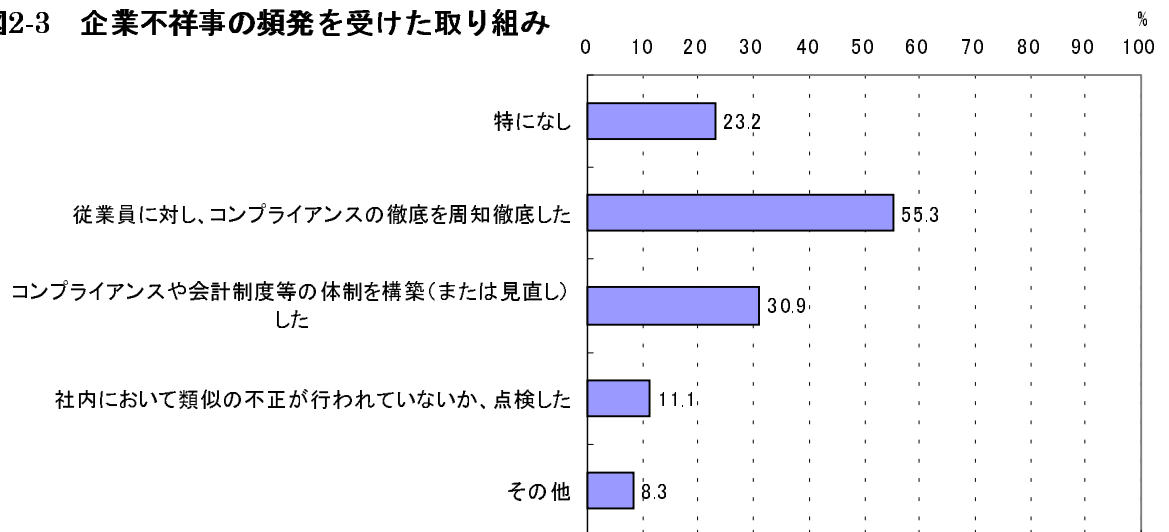
図2-2 米国型資本主義に対する評価



問3 こうした事件の頻発を踏まえ、貴社で自発的に取り組んだことはありますか。
(〇印はいくつでも)

- 企業不祥事の頻発を踏まえた取り組みとしては、「従業員に対するコンプライアンスの周知徹底」が最も多く (55.3%)、次いで「コンプライアンスや会計制度等の体制の構築または見直し」があげられた (30.9%)。
- 「特段の取り組みはしなかった」とする回答は全体では23.2%であったが、資本金5億円未満で31.7%、従業員数300人未満で38.2%、売上高100億円未満で42.5%と、規模が小さな企業ほどその割合が高くなる傾向が見られた。

図2-3 企業不祥事の頻発を受けた取り組み



問4 貴社では、現在こうした不正行為が発生していないと言えますか。
(○印は1つ)

- 「不正行為はないと確信しているが、正直なところ不安はある」とする回答が52%となり、「自信を持って不正行為はないと言える」の44%を上回った。
- 回答者（企業）のプロフィール別に見ると、創立年1980年以降の企業では「自信を持って不正行為はないと言える」が58.0%と、79年以前企業の42.5%より高くなった。また、「不正行為はないと確信しているが、正直なところ不安がある」との回答が従業員数300人以上で55.8%、売上高100億円以上で54.5%となり、それぞれの規模が小さい企業よりともに20%以上高くなった。

図2-4 不正行為の有無

